

令和3年3月31日

「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議中間まとめ」 に関する意見等について

日本教職大学院協会

令和3年3月17日に公表された「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議中間まとめ」に示された、デジタル教科書の導入及びそれに伴う教育環境の変化については、全国54の教職大学院により構成される本協会においても大きな関心をもって注視しているところである。デジタル教科書導入にあたっての最重要課題となる、教員のICT活用指導力向上において、教職大学院が大きな役割を果たすことになると考えており、ここに本協会としての意見を述べる。

1. 教員のICT活用指導力向上

デジタル教科書及びデジタル教材を有効に活用するためには、教員自身がICTに関する十分な知識及び指導力を兼ね備えていることが必須となる。また、学校現場に多くのICT機器が導入されることに伴い、授業のあり方や教員のあり方自体が大きく変化することが予想される。これらの大変革に対応するためには、教員養成段階での教育と併せて現職教員への研修により、教員のICT活用指導力の向上が図られる必要がある。

このため、教育委員会等と連携した教員養成及び現職研修の高度化の役割を担う教職大学院を教員のICT活用指導力向上を図る研修プログラムの開発や実施機関として、明確に位置づけていただきたい。

2. 教育効果等に関する実証研究等

デジタル教科書は、デジタル教材やスタディ・ログとの連携等により、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に向けて、大きな役割を果たすことになると考えられる。

しかしながら、現状においては、デジタル教科書及びデジタル教材の導入実績が乏しく、その教育効果やデメリットが十分に検証されているとは言えず、全国規模での実証研究が急務である。そこで、全国に設置された教職大学院を教育効果等の実証研究機関として明確に位置付け、ご活用いただきたい。

以 上